令和６年度札幌地区中学校バレーボール選手権大会　競技･審判上の注意

競技委員長：安齋　葵
審判委員長：笹木宣拓

１競技規則について
令和６年（2024年）度（公財）日本バレーボール協会６人制競技規則により行う。プロトコールは中体連方式とする。

２時間の厳守について
試合開始予定時刻（予定時刻を過ぎても前の試合が終了していないときは、前の試合の終了時刻）から15分間を経過しても試合会場に現れないチームは棄権とみなす。

３チーム編成について
（１）１チームは、監督１名、コーチ１名、マネージャー１名、選手12名の、計15名以内とする。
（２）監督、コーチ、マネージャーは、必ずワッペンを着用する。
（３）構成人員以外の者は、試合前の公式練習には参加できない。

４チームキャプテンについて
（１）チームキャプテンは、試合設定時間の11分前にスコアラーズテーブル前でトスを行う。11分前になっても前の試合が終了していないときは、前の試合が終わり次第行う。（キャプテンマークの付いたユニフォームで参加すること）
（２）チームキャプテンは、試合開始前と試合終了後に必ずスコアラーズテーブルに行き、スコアシートにサインする。
（３）チームキャプテンがゲームに参加しないとき、またはリブロリプレイスメントで交代する場合はゲームキャプテンが誰かをレフェリーに明示する。なお、リベロ選手もゲームキャプテン、および、チームキャプテンになることができる。
（４）ゲームに関することでレフェリーに質問できるのは、ゲームキャプテンのみである。

５監督および選手交代について
（１）監督は、公式練習開始前にスコアラーズテーブルに行き、リベロ選手の申し出をし、スコアシートへのサインを行う。
（２）正規のタイムアウトを要求することができるのは監督だけである。
（３）タイムアウトを要求する際、監督は必ずハンドシグナルを示す。口頭のみによる要求は認められないが、セカンドレフェリーが要求に気が付かない場合などは、ハンドシグナルとともに一声かけていただきたい。
（４）ベンチにいる選手は、ベンチからむやみに立ち上がったり離れたりせず、ベンチに座っているかウォームアップエリアにいるようにする。
監督は、インプレー中もベンチから立ち上がって指示することが認められているが、以下の点については注意すること。
①　指示が終わったら速やかに着席する。
②　フロントゾーンの想像延長線上に立ち入ってはいけない。
③　ラインジャッジの視界の妨げにならないようにする。
（５）選手交代の要求とは、プレーの中断の間に、プレーする準備のできた交代選手が選手交代ゾーンに入ることを言う。負傷による交代やセット開始前の選手交代を除いて、監督は選手交代のハンドシグナルを示す必要はない。交代選手の準備ができていなければ、選手交代は認められず、チームは遅延行為により罰せられる。選手交代の要求は、スコアラーのブザーまたはセカンドレフェリーのホイッスルによって通知される。選手交代を許可するのはセカンドレフェリーである。チームが、二組以上の選手交代を同時にしようとするときには、それらが同一の要求とみなせるように、すべての交代選手が同時に選手交代ゾーンにはいらなければいけない。この場合、交代は一組ずつ連続して行われなければならない。選手交代の際、交代する選手は挙手をして、自分が交代する旨の意思表示をすること。このとき、選手同士が互いの掌を合わせる必要はない。

６コート・ワイピングについて

（１）フロア・モッピングシステムを採用する。
（２）ゲーム中、ラリーとラリーの間にモップを使用することはできない。
（３）タイムアウト中およびセット間は、ベンチにいる選手がモップでコートを拭く。したがって、選手はコート外に出て、ベンチ前でミーティングを行うことになる。その際、できるかぎりサイドラインから離れること。

７その他

（１）セット間はフリーゾーンでボールを使用してもよいが、隣のコートの邪魔にならないように、行うのはパス程度のものとする。
（２）スポーツマンとしてふさわしくない行為は避けること。
（３）前の試合終了後、ネットを使用して５分間の合同練習を行うことができる。
（４）給水のためのタイムアウト（WTO）を採用する。
（５）ベンチスタッフの服装は、統一されたものが望ましい。
（６）ベンチでは、携帯電話等の電子機器の使用を禁止する。
（７）公式練習終了後、ボールケースはフロアから外に出すこと。
（８）試合開始・終了の挨拶の際、選手はエンドラインで礼をした後アタックラインまで進み、相手チームと審判に礼をする。